

1. 日 時 1997年10月14日（火）10:30～11:10

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 伊原委員長代理、田畑委員、藤家委員、依田委員
（事務局等）林政策課長、伊藤原子力調査室長
池本専門委員
森口動力炉開発課長
動力炉開発課 平尾、遠藤、山口
廃棄物政策課 森山、坂本、山田
原子力調査室 松澤、杉本、新井、仙石、中山

4. 議 題

- （1）高速増殖炉懇談会報告書（案）について
- （2）RI・研究所等廃棄物事業推進準備会の設置について
- （3）その他

5. 配布資料

- 資料1 第65回原子力委員会定例会議議事録（案）
資料2-1 高速増殖炉研究開発の在り方（案）
資料2-2 高速増殖炉懇談会報告書案に対する意見募集について
資料3 RI・研究所等廃棄物事業推進準備会の設置について

6. 審議事項

- （1）高速増殖炉懇談会報告書（案）について

標記の件について、事務局より資料2-1に基づき、平成9年10月9日の標記懇談会で取りまとめられた報告書案の概要について説明があり、続いて資料2-2に基づき、本報告書案に対する意見募集を本日より11月14日（金）まで行うこと及び11月7日（金）に報告書案に関するご意見を聞く会を開催することについて、説明があった。

これに対し、委員より、

- ・本報告書は、懇談会で出たいろいろな多数意見及び少数意見の双方を取りまとめ、従来の報告書より一歩進んだものと評価できる
- ・審議経過や結論は妥当なものと認識。特に「研究開発の途上にある技術に対しては、事故は起こらないという態度で臨むのではなく、事故はいつでも思わぬところから起こりうるものであるから、その発生を未然に防止するための注意を持続しつつ万全の対策を講じるとともに、仮に起きたとしても人体・環境への影響を与えないようにするという、謙虚かつ懸命な姿勢が必要」との指摘がなされたことは非常に重要
- ・原子力基本法の精神にまでもどって議論されたことは意義があり、国民の理解を得ながら原子力の研究開発利用を進めるに当たっての基盤となる
- ・諸外国の情勢について注意深く分析し、学ぶべきことを謙虚に学ぶことは大切だが、我が国の状況を踏まえ、独自の立場から政策を立てることは必要であり、報告書ではその方向が示されている
- ・現時点で内容にコメントするのは差し控えるが、本懇談会のような審議の進め

方や、国民から意見を聞いていく体制が定着してきたのは大変よいこと等の意見があった。

(2) R I・研究所等廃棄物事業推進準備会の設置について

平成9年10月1日に設置された標記準備会について、事務局より資料3に基づき、組織体制、準備会の業務等について報告があった。

これに対し、委員より、

- ・積年の課題に一步踏み出したことは歓迎すべきこと
- ・現実的問題として、大学、病院、中小事業者等、多くの事業者が関係しており、問題の所在や進行度合がそれぞれ違うので、現状をよく把握するとともに、長期的視野に立って事業主体と各事業所をいかに律していくかが大切
- ・原子力バックエンド対策専門部会での議論の進み方や他省庁とよく関係を保ちながら本準備会を進めていくことが大切

等の意見があった。

(3) 議事録の確認

事務局作成の資料1第65回原子力委員会定例会議議事録(案)が了承された。

なお、事務局より、次回は10月17日(金)に臨時会議を11:15から開催する方向で調整したい旨発言があった。